

※PDFに変換して提出してください。

## <履歴・業績書（記入見本）>

右記を確認し、チェックをつけて下さい。 <input checked="" type="checkbox"/>	提出書類の記載内容について事実と相違がなく、また、これまでの経歴において、セクシャルハラスメントを含む性暴力等による懲戒処分歴がないことを誓約し、応募いたします。 ※詐称があった場合、就業規則等にもとづき、厳正に対処します。
--	---

### I 候補者基本事項

ふりがな	りつめい たろう	戸籍名	やかた たろう	性別	男性
氏名	立命 太郎	戸籍名	館 太郎	生年月日（西暦）	1990年4月1日
アルファベット表記	RITSUMEI Taro	戸籍名	YAKATA Taro	着任時年齢	37歳
現住所	〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京朱雀町 1-2-3				
メールアドレス	aaaaa@aa.aaaa.ac.jp				
電話番号	03-0000-0000				
携帯電話番号	090-0000-0000				
現職	円町大学国際コミュニケーション学部 准教授				
最終学歴	衣笠大学大学院外国語学専攻博士後期課程 修了				
学位	博士（外国語学、衣笠大学）2020年3月取得				
専門とする研究分野	第二言語習得				

### II 候補者履歴（※古いものから順に記載）

年月	学歴	
2009年4月	衣笠大学外国語学部西欧言語文化学科 入学	
2013年3月	同上 卒業	
2015年9月	South Madison University, Department of Applied Linguistics, Master program 入学	
2017年5月	同上 修了 MA (Applied Linguistics) 取得	
2018年4月	衣笠大学大学院外国語学専攻博士課程後期課程 入学	
2020年3月	同上 修了、博士（外国語学、衣笠大学）取得	
年月	職歴	
2013年4月	株式会社京都開発、国際事業部（2015年3月まで）	
2017年9月	双ヶ丘大学非常勤講師（現在に至る）	
2021年4月	円町大学国際コミュニケーション学部 特任講師（2024年3月まで）	
2024年4月	円町大学国際コミュニケーション学部 准教授（現在に至る）	
学会活動	所属学会	言語習得学会、京滋応用言語学研究会、京都英語教育学会
	学会委員等	京滋応用言語学研究会事務局（2022年4月～2025年3月まで） 京都英語教育学会編集委員（2025年4月から現在に至る）
賞罰	年月	概要
	2019年10月	言語習得学会優秀ポスター賞
資格・免許	年月	概要
	2009年3月	中学校教諭専修免許状（英語）、高等学校教諭専修免許状（英語）

### III 教育業績（※新しいものから順に記載）

機関	期間	教育を行った機関	主な担当科目
学部	2021年4月～現在に至る	円町大学国際コミュニケーション学部	Extensive Reading, Debate and Discussion, 異文化研究入門
	2017年4月～現在に至る	双ヶ丘大学生文学部、同経済学部	英語講読演習、資格英語演習
大学院	年月～年月	なし	なし
その他 教育機関等	年月～年月	なし	なし

### IV 国際的活動、地域・社会活動、各種委員歴、企業等における事業活動・実績等（※新しいものから順に記載）

年月	活動内容
2013年8月	現地業務のためコンゴ王国キンシャサ市駐在中にボランティアで現地の高校生に日本語を教えた（2013年12月まで）
2022年4月	英語検定面接委員（2024年3月まで）

**V 研究業績** 書式は自由です。

「(1) 出版著書」「(2) 原著論文」に関しては学術雑誌の参考文献のスタイルの要領で著書名タイトル、記載ページ、掲載雑誌、出版社等を記載してください。応募者の研究分野で使用されているスタイルで構いませんが、次の点に留意してください。

- ・学会誌は出版学会がわかるようにする
- ・大学紀要は出版大学がわかるようにする
- ・査読の有無を記載する

(1) 出版著書（※新しいものから順に記載）

【記入例】

1. 相田満男・立命太郎 (2025) 『日本人英語学習者のイントネーションと情報構造』京都：百万遍出版。（査読なし）
2. Smith, John and Taro Ritsumei (2022) “Chapter 4: New trends in language acquisition theory,” In *Handbook of Second Language Acquisition*, eds., Mandy Simons and Vince Carter, 112-140, New York, Soho Publishing.（査読あり）

(2) 原著論文（※新しいものから順に記載、博士論文、修士論文を含める）

【記入例】

1. Ritsumei, Taro (2020) “An AI-based theory of communication,” 『言語文化研究』55号、13-31、円町大学国際コミュニケーション学部紀要。（査読なし）
2. 立命太郎 (2020) 「英語倒置文の習得と理解」博士論文、衣笠大学。（査読あり）
3. Ritsumei, Taro (2020) “A theory of negative inversion and its application to language acquisition,” *Second Language Learning and Acquisition* 9: 1-20, 言語習得学会。（査読あり）
4. Ritsumei, Taro and Takafumi Yoshimura (2019) “AI-psychology and LLM,” *Journal of Language and Technology* 42: 355-376.（査読あり）
5. Ritsumei, Taro (2017) An anti-psychological approach to second language acquisition, master thesis, South Madison University.（査読あり）

(3) 翻訳、教科書等（※新しいものから順に記載、種別を明記）

【記入例】

1. 相田満男・内海圭子・周 富徳・デミ ムーア・立命太郎 (2023) *College English Practice*, 大阪：英語堂。（教科書）
2. 立命太郎 (2022) 『社会人のための TOEFL 練習問題』大阪：堂島書籍。（一般書）
3. ランディー ローズ（著）立命太郎（訳）(2019) 『第二言語習得神話』東京：言語館。（専門書翻訳）

(4) 学会報告（※新しいものから順に記載、国際学会の場合はその旨明記）

【記入例】

1. Aida, Mitsuo and Taro Ritsumei “Some problems with teaching English intonation to Japanese students,” The 44th Conference of English Teaching, September 1, 2024, Manhattan University, USA.（国際学会）
2. 立命太「イントネーションの解釈と習得」第29回京都英語教育学会, 2023年12月24日, 衣笠大学.
3. Ritsumei, Taro “AI-model of non-psychological acquisition of English as second language,”（ポスター発表）The 20th Conference of the Society of Language Acquisition, August 20, 2019, University of Naniwa, Japan.（国際学会）

(6) 科研費補助金採択状況（※新しいものから順に記載）

【記入例】各列の幅は適宜調整してください。

研究種目	研究課題名	研究代表者	研究分担者	期間
基盤研究 (C)	イントネーション教授法	立命太郎	なし	2025年4月～2027年3月
基盤研究 (C)	AIを用いた英語教育	相田満男	立命太郎他3名	2023年4月～2026年3月
萌芽研究	イントネーション判定プログラムの作成	立命太郎	なし	2021年4月～2023年3月

(7) その他、特徴的な業績（※新しいものから順に記載）

科研費以外の研究補助金、未発表のフィールドワーク研究、国際会議・メディアでの通訳経験等、広く教育・研究に関連する事項があれば記入してください。

以上